

6. 爆心地

被爆後の広島には、進駐軍の兵士や占領統治にかかわる職員などを含め、多くの外国人が訪れた。彼らの多くは爆心地へと向かった。爆心地には看板が掲げられ、付近では原爆で変形したびんや瓦などを売る土産物屋も開設されていた。



6-1. 爆心地での記念撮影

1948年(昭和23年)12月30日 ローレンス・ヒューズ・ジュニア資料
マッカーサー記念館所蔵 2017年(平成21年)収集

GHQ職員だったアメリカ人ヒューズ氏が個人的に広島を訪れた際に撮影したもの。鉄塔に「CENTER OF IMPACT」と書かれた看板が見える。



6-2. 爆心地付近

1948年(昭和23年)12月30日 ローレンス・ヒューズ・ジュニア資料
マッカーサー記念館所蔵 2017年(平成21年)収集

ヒューズ氏が撮影した爆心地付近。この写真が貼られたアルバムには、「爆心地付近の驚くべき再建を示している」とある。



6-3. 爆心地での記念撮影

1947年(昭和22年)12月～1948年(昭和22年)前半頃
アレクサンダー・ターンプル図書館所蔵 2017年(平成21年)収集

ニュージーランド軍の兵士が爆心地の看板の前で撮影したもの。中国・四国の占領は連合国軍のうちイギリスを始めとした英連邦軍が主に担当した。



6-4. 爆心地付近

1947年(昭和22年)1～2月 ジョージ・バージェス撮影
マッカーサー記念館所蔵 2017年(平成21年)収集

日本の賠償に関する調査をしたOCI(海外コンサルタント会社)が広島を訪れた際、その一員であったバージェス氏が撮影したもの。



6-5. 原爆ドーム北側のモニュメント

1947年(昭和22年)12月～1948年(昭和22年)前半頃
アレクサンダー・ターンプル図書館所蔵 2017年(平成21年)収集

原爆ドーム前に作られたモニュメントの前で記念撮影をするニュージーランド軍兵士たち。このモニュメントは「平和記念塔」と呼ばれたもの。1947年(昭和22年)に昭和天皇が広島を訪れた際に作られ、1955年(昭和30年)頃まで存在した。



6-6. 「原爆一号」吉川清さんの店

1951年(昭和26年)以降 マッカーサー記念館所蔵 2017年(平成21年)収集

米国の雑誌で「Atomic Bomb Victim No.1」(「原爆一号」)と紹介された吉川清さんは、爆心地付近で土産物屋を開いていた。原爆により背中に大やけどを負った吉川さんは、客の求めに応じてケロイドの残る背中を見せることもあった。